



古墳の山 雪野山

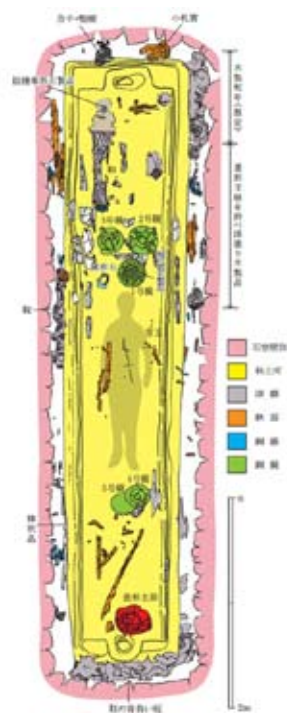


出典：東近江市教育委員会

雪野山古墳

この地域はかつて古代豪族による統治が行われていた地で、多くの古墳があります。その中で特に大きな古墳が、平成元年に雪野山の山頂で未盗掘のまま見つかりました。

調査の結果、古墳時代前期の前方後円墳であることが分かりました。縦穴式石室の壁面にはベンガラが塗られていました。石室からは銅鏡、銅鏃、漆、石、鉄製品、ガラス小玉、壺形土器等の副葬品が多く出土しました。古墳発見当時の現地説明会



舟形木棺とその内部

出典：東近江市教育委員会

では内部を覗き込み、赤の鮮明さに心うばわれたものでした。
そしてその後墳丘は、中世期に山城に改変されました。
さらにここには貴船神社（祭神…たかおかみの神）をまつる祠が建てられ、龍神の住む神聖な山として崇められていたということです。この神社は明治42年に羽田神社に合祀されています。



山頂に最も近い登り口 雪野山古墳まで約 40 分

雪野山歴史公園と八幡社古墳群

雪野山古墳は山頂に築かれています。最も山頂に近い登り口が雪野山歴史公園の一角にあり、この登山ルートに入るとすぐに八幡社古墳群に出会います。



雪野山歴史公園

平成5年に28,000㎡の公園が整備された。春には桜やツツジが咲き誇り、年間を通じ散策やグランドゴルフに利用されている。子供の学習活動にも使われ年々賑わいを増している。市の指定管理事業として公園の運営や維持管理をまちづくり協議会が行っている。



写真：滋賀報知新聞社

雪野山歴史公園で開催されている水鉄砲合戦



八幡社古墳群

山頂に向かう

「雪野山古墳は平成13年に重要文化財、平成26年に国の史跡に指定されました」

散策路

古墳がある山頂へは、雪野山歴史公園の一角から登れます。稜線まで途切れることなく階段が付けられており、途中の展望台からは湖東平野を一望できます。稜線との出会いから頂上までは緩やかな起伏のある道が続きます。道筋にはミツバツジが群生しており、春先にはピンクの花が散策路を彩ります。

山頂

雪野山歴史公園の登り口から四十分くらいで山頂に着きます。古墳は発掘調査のあと古墳は埋め戻されていますが、現地に建てられた案内板により、その全容を知る事ができます。



眺望展望台



ミツバツジが群生する散策路



出典：東近江市教育委員

墳丘形態（現地案内板より）
全長 70m、後円部直径 4.0m、
高さ 4.5m、前方部の高さは
2.5m 以上ある。



雪野山古墳後円部（山頂）



雪野山城の遺構と考えられる石垣

雪野山城

中世後期、雪野山古墳の墳丘の上に雪野山城が築かれていました。

- 以下、東近江市埋蔵文化財センターのホームページから引用 -

現地表面で注目されるのは、南側に石垣、前方部の両側が竪堀状に削られているなど、中世に山城へと改変がされていると推察される点です。雪野山の麓には、佐々木六角氏の家臣であった後藤氏の邸跡があります。雪野山古墳は後世に改変され、後藤氏の付け城となったと考えられています。 - 引用終了 -

また後藤氏は、後藤館と雪野山城以外にも佐生城を構え、観音寺城内にも邸がありました。



後藤氏の4つの城 / 屋敷跡



女坂の峠近くにある東屋



稜線が女道と交差するあたり



稜線との出合にあるあずまや
ここから縦走路が始まる



縦走路の入口近くにある
平石古墳群

Google MAP

雪野山を歩く

稜線には散策路が通っており、整備された登山道や山越えの旧道から登る事ができます。散策路には多くの展望所があり、変化に富んだ眺望が楽しめます。

げしめ登り道から



下羽田町・上平木町方面



中羽田町・上羽田町方面



明神池を眺めながら下山

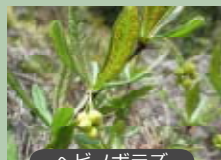


山裾の紅葉



晴れた日には琵琶湖ごしに比良山がよく見える

写真と解説：森さよ子



ヘビノボラス

蛇も登れないトゲがある



トウカイモウセンゴケ花

東海地方に多い毛氈苔。葉のネバネバで小さな虫を捕まえる



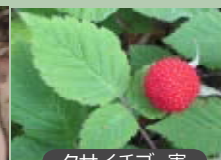
トウカイモウセンゴケ

野いちごの中で一番おいしい



クサイチゴ 花

野いちごの中で一番おいしい



クサイチゴ 実



サルトリイバ

猿も捕獲できるイバラがある



サルトリイバ

下羽田の伝統行事 水無月団子



モチツツジ

とり纏のようにベタベタする



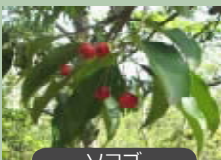
ウワミズザク

ソメイヨシノの後に咲



タカノツメ

鷹の爪 若葉は食べられ



ソゴ

葉が風に戦ぐ 赤い実がなる



コバノガマズ

秋には赤い実ができる



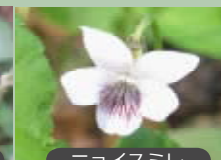
ヒメミソハギ

ミソハギに似た色合いの小さな花



ニオイタチツボスミ

ソメイヨシノの後に咲



ニョイスミレ

紫のスミレが終わる頃に咲く

散策路を彩る草花と樹木の花

雪野山北西部の散策路周辺には、早春からアセビやクロモジ、ツツジが咲き始め、ヤマザクラ・カスミザクラ、桜には見えない花をさ咲かせるウワミズザクラやイヌザクラなど4種類もの桜が咲きます。湿地には大変珍しいトウカイモウセンゴケが見られます。ピンク色のかわいい花に似合わず、昆虫を栄養にする食虫植物です。同じやせ地を好むヘビノボラスは、5月に黄色い花が咲き、秋には真っ赤な実ができます。

君の名は安吉山？それとも安妃山？

かつて雪野山は「安吉山」（あぎさん）とも呼ばれていました。そして今、安吉山は雪野山を横断する女坂より北西側の山域の呼び名として使われています。

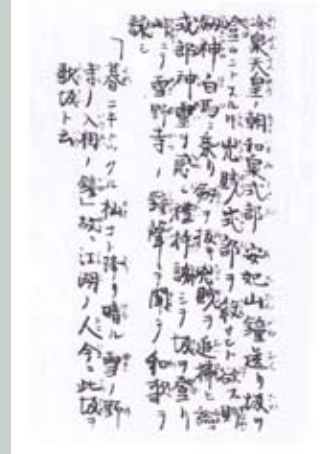
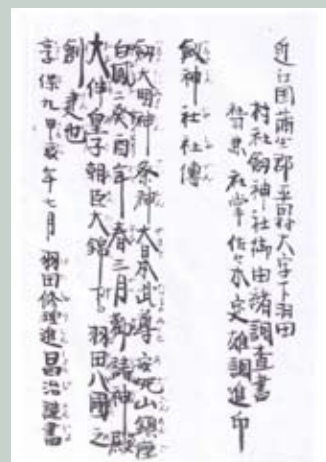
安吉山と安妃山

雪野山の山中には「安吉山」だけでなく「安妃山」と書かれた案内板がいくつも設置されています。これも「あぎさん」と読み、使われている漢字は違いますが、「安吉山」と同じ山域を示しています。

劔神社の社傳（しゃでん）

歌坂と和泉式部に纏る逸話が記されている。

明治以前、雪野山の山裾にあつた下羽田町の劔神社の社傳（しゃでん）には、その場所について「安妃山鎮座」と記されている。また歌坂で和泉式部が兇賊に襲われそうになった時、劔神が白馬に乗り劔を抜いて追い払い、そのとき式部は神霊を感じ歌を詠んだと記されている。



劔神社跡のすぐ傍の歌坂の入口にある歌碑



和泉式部が歌坂で詠んだとされる和歌が刻まれている

雪野山の北西部

歴史ロマンあふれる山歩き

雪野山は北西に向かうにつれ山幅が狭まっていきます。その変化は女坂あたりから始まりますが、下羽田地先に入るあたりから顕著になり、一見るそれは動物の尻尾のようにも見えます。その姿からこの雪野山北西部を取るに足らない場所のように思ってしまうがちですが、それがなかなか、ロマンあふれる魅力敵な場所なのです。

歌坂と女坂

雪野山には伝承が残る山越えの峠道が2本あります。その一つが「歌坂」でもう一つが「女坂」と呼ばれる道です。この二つの道は散策路として整備されています。いずれも稜線と交差しており、歴史ロマンあふれる登山を楽しめます。

歌坂は下羽田町から雪野山を越え近江八幡市浄土寺町通じています。平安中期の女流歌人和泉式部が安妃山「鐘送り坂の峠」（この道の峠）で雪野寺の鐘を聞き歌を詠んだとされ、この事から歌坂」と呼ばれるようになったとされています。



歌坂の入口

入口に建てられた石碑には、和泉式部がこの坂で詠んだとされる「暮れにきと 告るそまこと降晴る 雪の野寺の 入相の鐘」の歌が刻まれている。

女坂は中羽田町から雪野山を越え、竜王町林に通じています。伝えによると、御澤神社の池に住む大蛇（竜）が美女に化け、御澤神社に参詣した小野時兼という人と契りを結んだが、後に時兼に別れを告げ、この坂を越えて平木の澤に帰った事から女坂と呼ばれるようになったとされています。

また、雪野寺が栄えた頃の裏道として往来があり女坂と名付けられたともいわれています。

なお現在この古道は、稜線に到達した後、その先が塞がっているため、残念ながら山向こうに通り返ける事はできません。



女坂の入口



多聞院 - 本堂

安貴山勝善寺多聞院

女坂入口のすぐ傍には、通称「多聞院」として知られる正善寺があり、その境内には室町時代の宝篋印塔が残っています。



「歌川国芳」瓶割り柴田の図（個人蔵）

瓶割り柴田の逸話が残る

戦いの山 瓶割山



画写真：滋賀報知新聞社

一の郭・のろし駅伝



土橋



古井戸



石垣

山中に残る瓶割山城の遺構

瓶割山とは

瓶割山は岩倉山と一つの山塊を成し、雪野山の北西端のすぐ近くに位置しています。そしてその稜線は東近江市と近江八幡市との境界を成しています。この山にも悠久の歴史を感じさせる古墳が点在しています。

標高232mの山頂付近には戦国期に柴田勝家が布陣したとされる瓶割山城の城跡があります。

瓶割山城跡

瓶割山城は古くは長光寺城とよばれ、応仁の乱の最中の応仁二（1468）年に近江守護佐々木六角高頼と対立した佐々木四郎政亮が、高頼の居城である観音寺城を攻め落とすために築城したとされる城跡があります。そしてこの戦いが終結した後この城は、観音寺城の支城として使われたと考えられています。

土塁で守られた広大な城域

瓶割山は隣の岩倉山と一つの山塊を成しており、その山間部は山裾までなだらかな斜面が広がっています。この斜面の近江八幡側の一角は土塁で守られており、その内側には不二の滝と名付けられた小さな人工の滝と神社があります。

一方、東近江市側の山間部は広範囲に宅地化されていま

す。この東近江側の山間部は、宅地の造成時に大きく改変されており、城山としての姿はみられません。しかし調べてみると、宅地として利用されていない区間に土塁のと旧道の一部が残っています。明治期の地図にも土塁跡らしきものが山間部を横断するように描かれており、東近江市側の山間部も土塁で守られていたと考えられます。



近江八幡市長福寺町に残る、瓶割山山裾の土塁



土塁と旧道を切通して施設された水道施設管理道路



鳴谷集落の東端付近に残る土塁と旧道

遺構が残る山頂へ

登り口は雪野山から徒歩10分



瓶割山の登り口は、
近江八幡市側と東近江市側の
両方にあります。
東近江側の登り口は、雪野山の
北西端から徒歩10分の位置にあります。

Google MAP



瓶割山城跡と瓶割山周辺：蒲生郡志より

柴田勝家とは

1522年に尾張国で生まれ
1583年6月14日没す。織田
信長に仕え、その妹のお市の方
をめとる。武勇に優れ鬼柴田の
異名を持つ。



柴田勝家像 - 本朝名將百図より
出典：長浜城歴史博物館

Google Earth

さらに、織田信長が上洛を果たした後の近江平定戦では、柴田勝家がこの城に入り、抵抗を続ける六角側の残存勢と戦ったとされています。

そしてその戦いの中、六角勢に取り囲まれて水源を断れた柴田勝家は、残った水が入った瓶を前に置き、この水が尽きて渴き死ぬよりも、力のあるうちに打って出ようと諭し、水瓶を割ったという逸話が残されています。

そしてこの事により柴田勝家は「瓶割り柴田」と称されるようになり、これが瓶割山という名の由来になっています。

山頂付近には複数の郭、石垣、土橋、古井戸などの遺構が残っています。

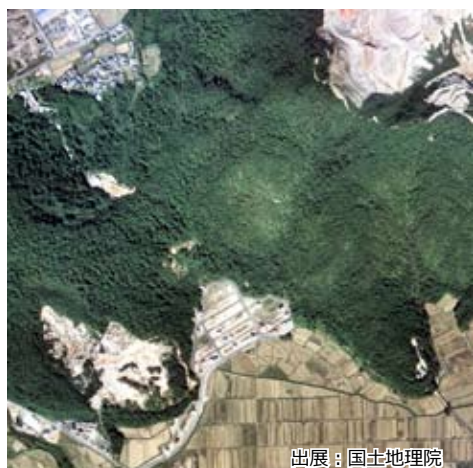
近江八幡市教育委員会発行の調査報告書より



発掘直後の古井戸と石垣

昭和50年の瓶割山

瓶割山と岩倉山に採土の跡が見られる。鳴谷に住宅が建ち始めている。



出展：国土地理院

昭和36年の瓶割山

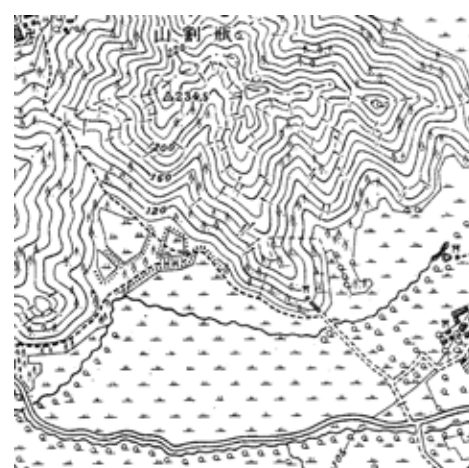
北東側の尾根がまだ残っている。鳴谷山間部は水田であった事がわかる。



出展：国土地理院

明治24年頃の鳴谷周辺

旧道が鳴谷を横断している。旧道の南側のり面は急斜面になっている。



「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R 1JHf 1154」「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」